

試料・情報利用研究計画書(概要)					
研究番号	2023-1017-1	利用形態	共同研究		
研究題目	メンデル性ランダム化(MR)及び観察研究によるアルコール摂取と脳体積の関係性の解明		研究期間	2024年3月 ～ 2026年3月	
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機構		責任者氏名・職	布施 昇男	教授
分担研究機関	東北大学医学系研究科		責任者氏名・職	青木 正志	教授
研究目的と意義	アルコール摂取によって脳萎縮が生じるかは十分に明らかになっていません。飲酒は遺伝的要因による影響が強いということがわかっており、その飲酒に関連した遺伝子と脳萎縮、認知機能との関連を調査することによって、飲酒と脳萎縮及び認知機能低下との因果関係を明らかにしたいと考えています。				
研究計画概要	アルコールに関連した一塩基多型をゲノムワイド関連解析によって明らかにし、有意差のあった変異を操作変数とし、脳萎縮、認知機能との関連を解析します。				
利用試料・情報	対象:東北メディカル・メガバンク計画における地域住民コホート調査及び三世代コホート調査に参加された20歳以上の方 試料:なし 情報:基本情報(年齢・性別)、調査票情報(身長、体重、 教育歴 、飲酒、喫煙、結婚の有無、既往歴、あなたの体質、仕事の状況、睡眠時間、人とのつながり)、 採血検査情報 、 日常活動量 、全ゲノム情報、アレイ情報、頭部MRI画像における各部分容積、 認知機能検査 、 神経心理学的検査				
期待される成果	本研究は、飲酒が脳容積や認知機能にどのような影響を及ぼすか本邦の患者で明らかにすることにより、飲酒における将来的な認知機能のリスクを明らかにすると共に、アルコール性認知症、アルコール依存症の個別化予防の実現に大きく寄与すると考えます。				
倫理審査等の経過	2024年3月 東北大学東北メディカル・メガバンク機構倫理審査委員会				
倫理面、セキュリティー面の配慮	本研究で取り扱う情報等は、保管期間が経過した後に、特定の個人を識別できないよう加工(コード化)したまま廃棄します。紙媒体の資料はシュレッダーで裁断し、電子記録媒体は読み取れない状態で廃棄、パソコン内のファイルは再現できない形で適切に消去します。				
その他特記事項	この研究は運営費交付金および寄附金により実施します。				
(事務局使用欄)	*公開日 2024年10月4日				